

里親なら

ご挨拶

奈良県里親会
会長 城 隆 男

奈良県里親会として半世紀近く活動してきましたが、今年には記念すべき年になりそうです。

それは、会報「里親なら」を創刊することになったこと。里親関連事業へ大きな一歩を踏み出すことになったからです。

会報は昨年より準備を進め、現在に至ることができました。主に、里親会活動・会員相互の交流や里親制度の啓発などを情報発信したいと思えます。本年度より、里親関連



笑っているかお
幼稚園長、小梅ちゃん作

事業として、奈良県こども家庭課、中央こども家庭相談センター、高田こども家庭相談センターと連携して、次の事業を行います。

①里親セミナー

里親に関心のある一般市民の方や里親が対象で、「知ってほしい里親のこと」をテーマに講演や体験発表を行います。

②里親サロン(親子会)

里親と里子が集う、親子の交流の場です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

③里親情報交換会(おしゃべり広場)

第3木曜日の午前中を中心に開催します。里親が日々の子育ての経験や語り合い、今後の子育てに役立つよう情報交換をお願いします。



(主な内容)

- ・ご挨拶 (1)
- ・奈良県里親会会報「里親なら」創刊号 (1)
- ・私の里親 (7)
- ・子どもに読み聞かせ (1)
- ・子育てのワンポイント
ちよつちよつと (13)
- ・奈良県里親会の活動 (4)
- ・本のご紹介 (4)
- ・会報の発行にあたって (5)
- ・感想 主筆(たます) (5)
- ・子育て広場 (6)
- ・ホームページの出来ました！
・里親会交流会 (6)
- ・里親制度の概要 (7)
- ・里親会活動にご協力を (8)
- ・おしらせ・編集後記 (8)

創刊号 2007年7月1日
発行 奈良県里親会
住所 奈良市紀寺町833
奈良県中央こども家庭相談センター内
TEL 0742-26-3788
FAX 0742-26-5651

この会報は、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業で作られました。

④奈良県里親会ホームページの開設

ぜひ、アクセスしてください。里親会活動の様子や里親制度の概要などを掲載します。

⑤里親研修

県内の里親及び児童福祉・保健・教育関係者や里親希望者を対象に、里親制度に対する認識を深め、

養育技術向上の研修を行います。

奈良県里親会は、里親委託を促進し、子どもの育成について研究協議するとともに、会員相互の親睦を図り、里親制度の向上をめざしています。子どもや家庭を取り巻く環境の変化がめまぐるしい中で、子どもたちが

愛情を感じながら安心して過ごせるように、里親制度を推進していきたいと思えます。

家庭の温もりを求めている子どもたちに、里親との出会いがありますように。この「里親なら」を通じて、一人でも多くの方に、ご理解とご支援をいただければ幸いです。

奈良県里親会会報

「里親なら」創刊号によせて

奈良県こども家庭課 課長 徂 徠 おさむ

平成19年4月1日付でこども家庭課長に就任しました徂徠です。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃より熱意を持って、家庭での養育を必要とする子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、また奈良県里親会の活動に積極的

に参加しておられる皆様方に厚くお礼を申し上げます。

近年、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化しており、子どもを育てていくということが難しくなっています。

このような状況の中で、奈良県における児童虐待の相談件数が平成17年度は過去最高の534件となり、平成18年度も同様な状況でした。悲惨な状況が日々報道されており、

県内でも、子どもが入院を要するような深刻な事件があったこともご承知のとおりです。

虐待を受けて、心に深い傷を負った子ども、また様々な事情により家庭で育てられない子どもたちの傷ついた心を聞き、愛着関係の形成を図り、大人や社会への信頼感を回復させるということは、その後の成長にとって大変重要です。従来、これらの子どもたちの生活する場はほとんど児童福祉施設でした。

しかし子どもたちが最初は「顔を合わさない」「感情をコントロールできない」等の状態であったのが、「笑顔を取り戻した」「人の話を聴くことができる」「自分のことを話せる」「高校に入学した」「卒業して就職した」等の姿を見ますと、里親の皆さんから愛され、大切にされた経験が、子

を推進するとともに、家庭で子どもを育てる環境を整備していく必要があると思えます。これらの子どもたちを、愛情と理解のある家庭の中で養育し、健やかな成長を図るという里親制度の重要性が高く認識されてきているところです。平成16年12月に厚生労働省が示した「こども・子育て応援プラン」では、里親への委託率を15%にするとの目標が設定されておりますが、県内の委託率は4%台にとどまっています。

どもにとつて大きな心の支えになったと思います。一方で、子どもたちの予想できない行動やトラブルへの対応など、様々な苦勞に敬意を表するものです。

このような時期にこそ、皆様とセンターの職員がより一層連絡を取り合い、子どもの成長を支援していくことが必要と考えます。

奈良県は平成19年度から里親推進事業を実施することとしました。新たな事業は、3つの柱で取り進むこととしております。

①里親啓発事業
里親制度に対する社会の認識を高めるために、広く一般県民に広報啓発を行います。

（「つどい」の開催やホームページによる里親の啓発を行います。）
②里親委託推進事業
里親委託推進員を配置し、里親推進委員会を設置して、

里親の開拓、委託を推進します。また施設入所中の子どもに、夏休みなどを活用して実際の家庭を体験させる機会を設けます。

③里親支援事業
里親や里親を希望する人を対象に研修を実施し、児童福祉への理解を深めます。里親同士の集いや交流により、里親の負担を和らげる場を設置します。

私の里親観 (1)

大津市里親会

副会長 村田 潔

結婚して6年、結婚する前からデイトに子どもを連れていくほど、子どもが大好きな私たちが夫婦に子どもがでなかつたことから、子育てを世間並みに体験したいという理由で、昭和59年に里親登録をしました。

ただ私の妻が看護師の仕事に生きがいを感じており、私も同様、環境関係の仕事に生きがいを感じており、やめる訳にはいきませんので、共働きで育てると言う、強い意向を持っていました。しかし、児童相談所からは何の連絡もありません。そこで新聞で知った、主に養子縁組の斡旋を行っている社団法人「家庭養護促進協会」の大阪事務所に飛び込み、昭和60年度の大阪市家庭教育学級に入り勉強をしました。

ここで初めて血の繋がりのない子どもを育てることの難しさを知りましたが、それでも敢えて共働きで

育てる、こうした考えをケースワーカーにぶつけてみました。すると「里親は子どもを選べますが、子どもは里親を選べません。だから子どもに代わって、私たちが、出来るだけ条件の良い里親に子どもを託します。共働きと言うのは大きなマイナス条件です」と一蹴されました。

それならば、二人とも働いていない上、日に子どもを預かってみようとして、市内の児童養護施設で生活している、小4の女の子を週末預かってみました。

隣家の女の子とも仲良くなり、児童相談所から方針が変わって里親宅に外泊することが難しくなり、1年半ほどで途絶えてしまいました。その後、親戚の子どもを、ある事情で週末、預かったりしていました。その子も中学生になると来なくなり、週末になると心にポツカリと穴があいた日々が、しばらく続きました。

そして、その穴を埋めるように、今も一緒に暮らしている男の子がやって来ました。出会いは平成4年の暮れ、私たちの家の近くにある、別の児童養護施設の子ども、二人を8日間預かったことから始まりです。4歳のその子ともう一人、3歳の男の子、そして親戚の子どもたちも呼んで正月を迎えました。楽しい8日間が、あつと言う間に過ぎ去り、別れの日にその子が「オッチャんの家へ、今度いつ来られる？ またオッチャんの家に泊まりたいワ」と、言いました。

その子は生まれてからずっと施設で育っており、言葉が少なく、自分の意思を伝えることがなかなか出来ないため情緒不安定になり、気に入らないことがあれば、パニック状態になる子どもでした。そのため幼稚園での集団生活も馴染めず、一人で動物相手に、または砂場で遊ぶような子です。

その子が初めて自分の思いを主張したのです。私は「いい子でいたら、また泊まれるようにしてあげるヨ」と、言っていました。早速、施設の先

生とも相談して、月2回ほど、週末に預かることを承諾してもらいました。このような子どもです。この最初の1年ほどは、妻が「しつけ」たら、私が「遊び相手」になり、妻が「叱る」と、私が「なだめる」と言う役割を演じました。小学校に入っても、まだまだ他の子どもと比べると、発達が遅れていることが分かりました。週末の私たちとの家庭生活だけでも、徐々にですが、明らかに成長していく手ごたえを感じていました。また、この頃になると毎週末来るようになつていました。

一方、その子との関係で施設への訪問を続けていきましたが、その子と同じように、帰省や外泊がほとんどない子どもが、結構いることが分かってきました。このような子どもたちを週末などに預かり、家庭の味を知ってもらうために、施設とも相談して、地域の社協や民生委員の協力により「週末里親の促進」の活動を始めました。この活動をとおして、その子以外の子どもも、週末預かるようになつていきました。

「生きる意味があるか」と問うのは、初めから誤っているのです。人生こそが問いを出し私たちに問いを提起しているからです。私たちは問われている存在なのです。（V・E・フランク）

心に残る言葉

「それでも人生にイエスと言う」より

皆同じように、愛情に飢えていることがありありと分かり、親との接触が長期間途絶えている子どもには、「愛情を独占できる特定の大人が必要である」ことを、痛感しま

した。またその子ども達にとつて、「週末里親」は通過点であつて、最終的には「養育里親」が必要である、とも思い始めていました。

(続2号)

☆子どもに「読み聞かせを☆

子どもに絵本を読んでも聞かせるという行為は、誰しも経験があると思います。しかし、ただ文字を声に出して読むだけではなく、読み手の感性、物語の理解、味わい方などが自然に表れ、聞き手の子どもは、ストーリーだけではなく、読み手の思想や感情を知る能力も養うことができます。

「7つの子は文字が読めるから、読み聞かせは必要ない」と決めつけてはいけません。また、物語の筋を覚えていく子どもがしつこいくらいお気に入りの絵本を繰り返し読んでもらいたがる時は、読み手の感性が子どもを感動させているのだと自惚れして、何度でも読んであげて下さい。

では、どんな風に読めばいいのでしょうか。子どもは、物語を聞きながら、絵本に描かれた絵を夢中になって追っているはずですから、速度は「ゆっくり〜」がポイントです。

絵本は、子どもが自由に楽しむ世界。読み手があれこれ教育的な思想で、いろんな質問を投げかけたりすると、物語に没頭できなくなってしまう。教訓よりも「おもしろい」という感動を大切に絵本を選び、一緒に楽しんで下さい。

●第2回里親サロン(親子会) 8月11日(土) 夏休み親子会は、「読み聞かせ会」になりました。皆さんの参加をお待ちしています。

子育てのワンポイント

ちょっとちょっと(1)

麻しん(はしか)について



全国的に麻しん(はしか)が大流行しています。奈良県でも、10~20代を中心に集団感染が広がり、大学が休講するなどの対応がとられています。

麻しんは、感染力が非常に強く、重症な場合には肺炎や脳炎を合併することもある病気です。

また、特に乳児や大人では重篤になりやすいので注意が必要です。

②部屋は20℃くらいに、時々換気を。咳が激しいときは加湿する。

③熱が長く続いて脱水症を起こしやすいので、飲み物はじゅうぶんにあげる。(番茶、果汁、スープなど)

④食欲もなくなり、のども痛いので、ご飯は柔らかめの消化のよいお粥のようなものを与える。プリン、アイスクリームなどでもOK。

⑤熱が下がれば、お風呂はかまいません。

<予 防>

麻しんウィルスの接種が有効。1歳時と小学校就学前1年間は予防接種法による定期接種、それ以外は任意接種となる。また、患者に接触した時は、接触後3日以内であればワクチンが有効。

麻しん(はしか)って、どんな病気??

<感染経路>空気・飛沫感染

<潜伏期間>10~12日

<症 状>

前駆期: 3~5日間、発熱、咳、鼻水など「かぜ」に似た症状が続く。

発疹期: 一旦、熱は下がるが、目が赤くなり目やにが出たり、口の中に、はしか特有のコプリック斑(周囲に発赤を伴う白い斑点)が出る。再び、高熱が出て、顔、首、全身に発疹が現れ、4~5日間続く。

回復期: 発熱はおさまり、発疹は色素沈着を残して消退する。

<治 療>

特効薬はなく、対症療法。

<看護のポイント>

①熱が続くときには氷枕などでクーリングする。

なぜ、今年、麻しんが10~20代に流行したのでしょうか??

その原因として、ある程度予防接種が普及した結果、感染症の自然な流行が少なくなり、ウィルスに接する機会が減ったことが指摘されています。予防接種により免疫を得た後、時間の経過と共に徐々に免疫が弱まってきます。これまでは、周囲での自然な流行でウィルスに何度か接する機会があり、その度に免疫が強化されてきました。

しかし、流行が少なくなった結果、予防接種の効果は、接種後10年程しか期待できなくなっています。子どもの頃に予防接種をしても決して安心はできません。風邪のような症状であっても、油断禁物です!!

(奈良県中央子ども家庭相談センター
保健師 大井 久美子)

奈良県里親会の活動

総会—4月

4月14日(日)午前10時30分から、奈良県里親会総会が、また、昼食をはさんで午後3時まで里親会初の里親サロンが、社会福祉法人天理の研修棟にて開催されました。

多くの会員や子どもたちのほか、奈良県子ども家庭課、中央子ども家庭相談センター、高田こども家庭相談センターから多数参加がありました。

総会では、事務局から平成19年度の事業計画が示され、会報の発行、会員同士の交流を図る里親サロン、セミナーの開催、里親会ホームページの立ち上げなどについて説明



里親サロン

があり、了承されました。また、本年度より奈良県が実施する新たな事業について、こども家庭課より説明と協力依頼がありました。

初めての里親サロンでは、3つのグループに分かれお茶を飲みながら、子育ての現況や日ごろの思いなど、自己紹介も兼ねて話し合いがもたれました。

初の里親情報交換会を開催—5月

5月17日(木)午前10時から、第1回情報交換会が児童家庭支援センターで開かれ、9人が参加しました。

養子里親・養育里親・週末里親が各々の思いを交換しながら、楽しい時間を過ごすことができ、毎日の子育てのヒントをたくさん得られたように思います。

血のつながりのない子を育てる中、親とは何か、子どもは何を考えているのかなどに思いを巡らせながら、子育てできることに、喜びを感じていま



里親情報交換会の様子

子どもが成長するにつれ、いろいろな悩みも出てきます。そんな気持ちを気軽に相談し話し合える仲間になれば、と思います。何でも話し合える、ざつくばらんな会にしていきたいと思えます。悩みがない！悩んだことがない！そんな方は、ぜひ助言をお願いします。皆さんもどんどん顔を出して下さい。

里親研修会の開催—5月

5月20日(日)午後1時30分から、里親研修会(児童家庭支援センター・てんり主催、奈良県里親会共催)が、社会福祉法人天理で開催されました。

講師には野口啓示氏(児童養護施設神戸少年の町・児童指導員)を招き、多くの会員や一般の方々など、定員80人を超え100人余りが参加しました。

講演のテーマは「わかりやすくコミュニケーションできますか?」コミュニケーション・ペアレンティング(誰にでもできる親業)でした。

子どもとの関係をどのように深めていけばよいのか、子どものしつけはどうしたらよいのか等、コミュニケーションの方法を具体的に学ぶ内容でした。

また、ほめ方やしかり方、親自身が感情を落ち着かせる方法をビデオを使って分かりやすく説明もなされました。

当日の資料(野口婦美子氏・保育士による「子育てにエールを送る」)の一部を紹介します。

情報交換会の愛称が「おしゃべり広場」に決まりました。

Hand-drawn illustration titled 'ママ... (子育てにエールを送る) だいじょうぶ!!'. It depicts a mother and child with various speech bubbles and notes. One note says 'ダメ!ダメ!って言ってませんか?' and another says '換いたては、おに、使いたては、さきせんか'. At the bottom, it says 'ママ、という字の2は、スリ、し、う、ね、という、異音を子どもに伝えよう。 (0-4才の子どもの発達)'

Hand-drawn illustration titled 'ママ... (子育てにエールを送る) だいじょうぶ!!'. It shows a mother and child with speech bubbles. One says 'サッパリしない!!' and another says 'わだかま、目には見えない、あかさま、あかさま!!'. Below, it says '＜言てきかせる方法 知①＞ - 理由を伝える -'. At the bottom, it says '0-4才の子 (神戸市立中央児童発達センター)'

Section titled '本のご紹介' (Introduction of the book). The book is 'ほんとうにかぞく' (The Real Family) by Takuya Ochiwa. It is a 2002 award-winning work from the 20th National Kinokuniya Book Fair. The text describes the book's content as a story of a family where the mother suddenly says 'I don't know' to her children, and the author explores the relationship between the mother and children through this experience.

近畿地区里親大会
開催 6月

6月9日(土)、平成19年度の近畿地区里親研修会が神戸市産業振興センターで開催されました。午前は講演で、演題は「こどもへのまなざし」、「抱きしめよう、わが子のぜんぶ」幼児から思春期に向けていちばん大切なこと。講師は佐々木正美先生(京産大精神科)、川崎医療福祉大学特任教授)でした。

午後にはパネルディスカッションで、「子育て実践の経験と提言」乳幼児期、小学校、中学校、そして進学・就職・里親の立場、里子の立場」でした。コーディネーターには(社)家庭養護進協会神戸事務所・事務局長の橋本明氏、助言者に講師の佐々木先生、パネラーには神戸市里親会から里母さん2人、里子として養育された経験のある成人女性2人が参加しました。里子の2人は結婚され、それぞれ漫画家、看護師として活躍しています。各パネラーが15分の持ち時間で自己紹介をした後、質疑応答がありました。

「ホームステッド(実子)と養子は同じか?」という質問に対して、「最初と同じと思っていたが、子どもが成長するにつれ、考え方が変わった」というお話が心に残りました。最後に、各パネラーが里親制度に対する提言を述べ、研修会を締めくくりました。それぞれの提言に共感しましたが、「こども家庭相談センターのケースワーカーさんには長期的に関わって頂きたい」という提言は、特に実現してもらいたいものです。



近畿地区里親研修会の様子

会報の発行にあたって

「里親なら」の題字は、興福寺の貴首・多川俊映様が揮毫してくださいました。

里親と興福寺には、古くからのかわりがあります。

平城京時代の興福寺には、悲田院がありました。悲田院とは棄児、孤児、貧窮者などを救う一種の養護施設で、日本では最初に聖徳太子が四天王寺に

建てた、とも言われていますが、定かではないようです。興福寺には723年に設置され、仏教の慈悲の思想のもと、多くの人々が助けられました。当時の興福寺には、保護しきれないほどの棄児や孤児がやって来たそうです。そこで近隣の人々に養育委託されることになったということです。我が国のはるか昔の養育委託(「里親」は、興福寺と深いかわりがあったのです。

随想

玉章

たまざさ

里親に関する、
男親と女親の
役割の実態は?

短期里親を体験された方は、奈良県にもおられます。ましてや全国の登録里親に視野を広げれば、大勢が経験されていることでしょう。そんな中で、女親ではなく、男親が主体で里子を預かったという家庭はどの位あるのでしょうか?

具体的には、小学校低学年の子どもを預かって、学校へ行かせる、先生や校長と話す、学童保育に行かせる、園長や担当に子どもの様子を聞く、公園で一緒に遊ぶ、お母さん方と子育てについて話す、食事を作る、洗濯をする、宿題を見る、叱る……。これら全てを男親がやった、という

例を私は知りません。

私はここ数年、近畿地区の研修会や全国大会の研修会に参加しています。様々なテーマの研修会、分科会がありますが、こと「子どもの直接的な養育」に関しては、お話しなさる方やパネラーは全て女親といってもよいくらいでした。中には本を出されたり、テレビに出演されたりして、名のある方もおられました。

しかし、「ちょっと待てよ」という思いにかられます。里親家庭は一般家庭と変わらず、女親と男親がペアでいるのが普通です。子どもを預かる時、「女親が中心でなければならぬ」、という決まりはないと伺っております。

ましてや今日、働く女性像が定着する中で、家事をする男性も決して珍しくはなくなりました。男親が子どもの育児をするという家庭状況は、現実には着々と増えつつあります。世界的には欧米を中心に、そういった生き方は市民権を得ているようです。

昨年、私は奈良県代表としては初

めて、パネラーとして研修会を体験しました。そこで、男親が直接子どもの世話をした例として、3年前に我が家が里子を預かった話しをしました。

これは、まれなことであったかも知れませんが、妻が子どもの服装や身だしなみ、運動会などでの弁当作り、持ち物全般についても、大変気を使ってくれました。やはり男親では気づかない面が多々あって、妻が子どもの精神の安寧には欠くべからざる存在であったことは否定しません。

思い出されるのは、こども家庭相談センターの機関紙『つばさ』が里親を取り上げた際、私共の養育体験談を載せてくれました。その同じ紙面に、たまたま興福寺さんの悲田院の話が載っていたのが、縁というものか、この創刊号の題字の揮毫に繋がった、という経緯があります。奈良県での、記念すべき『里親会会報・創刊号』に寄せて。

(監事 葛西 謙)